

この指と一まれ（第7号）

平成26年（2014年）7月16日
大中里保育園 園長 塩川恵美子

私たちは何を子どもたちに残してやれるだろうか？

平成26年7月1日 安倍首相は「集団的自衛権」の行使容認を決議し
国民の命 平和な暮らしを守るため切れ目のない安全保障法則整備が必要と演説。
集団的自衛権の是非がよく理解できないままのある日ふとこの歌が自然と口から出ました。

♪生きている鳥たちが生きて飛び回る空を あなたに残しておいてやれるだろうか父さんは
目を閉じてごらんなさい 山が見えるでしょう 近づいてごらんなさい こぶしの花があるでしょう

♪生きている魚たちが生きて泳ぎまわる川を あなたに残しておいてやれるだろうか父さんは
目を閉じてごらんなさい 野原が見えるでしょ 近づいてごらんなさい 竜胆の花があるでしょう

♪生きている君たちが生きて走り回る土を あなたに残しておいてやれるだろうか父さんは
目を閉じてごらんなさい 山が見えるでしょう 近づいてごらんなさい こぶしの花があるでしょう

（これは父親のための子守歌として高石ともやさんが作られた歌だそうです。）

澄み渡った青い空 よどみのないきれいな川 走り回れる大地・・・

太陽と水と大地は私たち大中里保育園の保育そのものです。

子どもたちと生活する毎日の中で泣いたりわめいたり怒ったり 時には何かに夢中になり一心に取り組む姿やその眼の中に何とも云われぬ子どもの力を感じ 振り返った顔の満面の笑みを見るとこの子たちに残しておいてやりたい 残していかなければならないものとして変わらぬものが見えてくる。私一人が言わなくても 私一人ではどうにもならないこと・・・そんな風に思うことが多かったけどでも人を武力で傷つけることはいいことではない！！

親として大人としてこの子たちを守るために今何をすべきか？何ができるか？命を犠牲にして何が残るか？！と。単純にただただこの平和 この幸せは壊してはいけないと思う。
自分を守るために戦う・・・大中里保育園でもよくケンカが起こる。そしてそのけんかを私たちは大切な経験として扱っている。それは相手の痛みを知り 手加減がわかるように そして言葉で伝えられるようになってほしいと願うからである。

力より話し合いが出来るのは言葉を持つ人間だけの強さ。 私たちはこの子らに何を伝え 何を残せるのか？大人の責任として今しっかりと自分の考えを持つことなのかもしれない。

周りに流されず ほんとうに愛しいわが子の未来を考え 出来ることは何かを自分に問う日々。
胸を張ってとうさんは かあさんはお前のために これだけは残したよと。



それは「殺させない 殺されない 戦争をしない憲法」。

残せるものなら残したいと・・・ 世界に誇れる憲法第9条の大切さを言い続ける事ではないか・・・。

今92歳になる父は師範学校からそのまま兵隊さんに・・・。幸運にもシベリアから帰って来て私たち姉妹が生まれました。しかし辛かったに違いないその数年間の事は殆ど話してくれませんでした。父から繋がった大切な私の命 この世に生を受けてこれから羽ばたこうとするこの子どもたちの命をどうやって守りましょう。

改めて私がこの子たちのために残せるものは・・・生きる力（生き抜く力）の土台となる体と心。お友達を大切にできる優しい気持ち いろんなことに挑戦する好奇心や勇気 自分で考える習慣を毎日 の生活の中で経験できる環境をこれからも大事にしていこうと思う。

私が残したいもの それは平和への感謝です。

最近「ノアの方舟」という映画を見ました。罪深い（奪い合い 殺し合う）人間をこの世界から抹殺することがノアの使命だった。でも苦悩の末にノアは人間が残ることを選び私たちの命はつながったのです。ノアが今につないでくれたこの命は戦うことからではなく話し合うことで守れるのではないかと。そうすることでこれからも繋がっていけるのではないかと。

7月 ある日の朝日新聞に「集団的自衛権って僕は戦争に行かなきゃならないの？という弟の問いに私は二人の弟に戦争に行くんだよとは言えない」と17歳の姉の投書が胸を突いた。

この子たちが成人になった時穏やかな平和な毎日が送れているのでしょうか？この子たち一人一人に戦うことより話し合うこと 戦争だけはしてはいけないと言える大人に育てたいと願うのは私だけではないことを祈りたい。

